

2024

3月

～広がれ人権ネットワーク～

三木市人権啓発紙

隣保館だより

テーマ：災害と人権

「隣保館だより」ホームページ（カラー版）
URL=https://www.city.miki.lg.jp/site/sougourin



1月の能登半島地震発生から2か月が過ぎました。被災地では、避難所生活を余儀なくされている避難者が、いまだに1万人以上もおられます。高齢者や障がいのある人、乳幼児・子ども、短期滞在の外国人や旅行者など、「災害弱者」と言われる人々の人権に配慮した支援が急務です。私たちができることはどんなことでしょうか。

三木市から珠洲市へ 被災地支援活動

1月25日～31日、市職員4名が珠洲市で家屋被害認定調査と避難所運営支援活動を行いました。そのうち避難所運営支援活動に従事した2人に聞きました。

商工振興課 田井良和さん

債権管理課 藤枝広起さん

公用車で26日に金沢市に到着し、27日に珠洲市に向かったのですが、ひどい状況でした。主要道路は土砂崩れやひび割れで寸断され、通常2時間で着くところが4時間半もかかって、本部のある珠洲市の健民体育館に着きました。多くの家屋が倒壊していて、津波に襲われた地区では、車が屋根の上にあるのを見ました。



担当した7か所の避難所では、水道が使えないことをはじめ、避難所の要望が届いているのか、津波被害の瓦礫処分の先行きなど、行政や公的機関の情報が圧倒的に不足していると感じました。

短い支援活動でしたが、ある避難所の黒板に書かれた言葉を見たときには、とても嬉しかったです。

支援活動をして強く感じたことは、災害が起きることを前提としてその被害を最小限に抑える「減災」の取組について、日頃から地域で話し合っておくことが大切だということです。



「珠洲のご支援に関わるボランティアの皆様へ感謝します」と書かれた掲示板

2人で避難所を何度も訪問しました。多くの家が倒壊したある地区で、自宅を提供して避難者を受け入れている所があり、地震の大きさに驚きを隠せませんでした。

支援活動は、避難所の代表者、主に区長さんなどから要望を聞き取り、必要な物資を届ける活動です。

要望の中には「下着のサイズの大きいものを」とか「水は2ℓ容器で」「同じ種類の非常食ではなく味の違うものを」などのように個々の要望に応えなければならない物がありました。また、「体温計・血圧計がほしい」といった生命にかかわる物品、「寝ているときに顔が見えないようにパーテーションを」などのように、プライバシーを守るための物品など、人権にかかわる要望もありました。

何度も訪問するうちに顔見知りになり、物資の支援だけでなく人と人の心のつながりも大切だと感じました。最後の訪問の時に「今回で最後です」と言ったら、代表の方に「もう帰るの、寂しいね」と言われ、言葉に詰まりました。やり終えたという気持ちと、心残りを覚えながら、能登の地を後にしました。



令和6年能登半島地震災害義援金を募集しています

令和6年1月9日～4月30日まで

募金箱設置場所：市役所、吉川支所、各市立公民館、三木南交流センター、三木コミュニティスポーツセンター、福井コミュニティセンター、市民活動センター、総合隣保館

人権の小窓 (262)

歌でつながるやさしさふわり

～支援活動で学んだこと～

石田裕之



いしだひろゆき

石田裕之プロフィール

シンガーソングライター。防災士、危機管理士、兵庫県ふれあい活動アドバイザー。

防災音楽ユニット Bloom Works でメジャーデビュー。NPO 法人北神戸田園ボランティアネット、P.U.S バングラデシュの村を良くする会、やっぺす、一般社団法人みずほの家理事

私は中学2年生の時、神戸市内で阪神・淡路大震災を経験しました。幸い大きな被害は受けませんでした。全国から様々なボランティアの方が駆けつけてくださったことが強く印象に残りました。1995年は日本の「ボランティア元年」とも呼ばれています。いつか、神戸を助けてもらったことへの恩返しができるばという思いから、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地へこれまで100回以上訪問し続けてきました。

初めて被災地を訪れたのは震災から2ヶ月後のこと。被災の爪痕が生々しく、避難所で過酷な生活をされる方もたくさんおられました。ボランティアセンターから割り当てられた作業は瓦礫（もとはは大事なお住まいで、持ち主にとってかけがえのない宝物）の撤去や、泥出しといった復旧のお手伝いでした。

あわせて、作業の合間を縫って避難所で慰問演奏をしませんかと、事前にご提案をいただいていた。そのお話をいただいた時は二つ返事で引き受けたのですが、いざ出発の日が近づいてくるにつれ、次第に不安になりました。

当然ですが、避難所にいらっしゃる方は、家を失くしています。大切な誰かを亡くされたかもしれない。そんな方を相手に歌なんか歌って良いのだろうか。かえって嫌な思いをさせてしまわないだろうか。そんな疑問が湧いてきたのです。そもそもなんと声をかければ良いのか、何から歌えば良いのか、いくら悩んでも見当もつきません。

結局、答えが見つからないまま当日を迎えました。体育館の玄関前に集まってくださった避難者の皆さんを前に、私は正直にそう伝えることにしました。

「今日は神戸から歌を歌わせてもらいに来ました



が、何を歌えばいいか、わかりません。ただ、古今東西のヒット曲が収録されている歌集を持ってきました。今から回しますので、聴きたい歌があればリクエストしていただけますか？そして、よければ前で一緒に歌ってください」

皆さん最初は戸惑われていました。そこへ中学生ぐらいの女の子が出てきてくれました。

「私、福山雅治の『桜坂』がいい」

「ありがとう。よかったら一緒に歌ってくれる？」

「うん、いいよ」

そうしてその子が前で歌ってくれました。すると、周りで聴いていた方から歓声が上がりました。

「〇〇ちゃんがばれー！」

「〇〇ちゃん、歌うまかったよ！」

その女の子をトップに、皆さん次々に前に出て歌っていただきました。私ではなく、地元の一人一人が主役のコンサート。次第に盛り上がっていき、最後に『上を向いて歩こう』を歌った時には、隣の人同士が肩を組んで大合唱になりました。みんなとても良い顔をしておられました。私自身も無心で楽しんでいました。こんなにも音楽をやっている良かったと思えた瞬間はありません。

コンサート終了後握手を求めて大勢の方が集まってくれました。その中の一人の女性の言葉が



忘れられず、今なお同じ地域に足を運び続けるきっかけになりました。それはこんなお言葉でした。

「今日は神戸から来てくれてありがとね。私たちの避難所にも、この2ヶ月の間にいろんな有名人や芸能人、歌手の方が来てくれて、歌ってくれたり励ましてくれたりしたよ。でも、私たちにこんなに歌わせてくれたのはあなたが初めて。この避難所はね、多い時には何百人もひしめき合って生活してるの。自分のスペースなんて畳一畳ほどしかない。プライバシーはダンボールの衝立て一枚しかない。そんな中でじっと生活していると、時には泣きたい時や叫びたい時…笑いたい時や歌いたい時だってあるけれど、周りもみんな辛い人だと思うとそういうことはできずにぐっと我慢してきたんだ。だから今日は大きな声で歌えてちょっと心が軽くなったよ。ありがとね。また来てね」

そう言って、私の手をぎゅっと握ってくださったんです。それを聞いた次の瞬間には、「絶対また来ます」と約束していました。その約束を果たす思いから、それ以来毎月一度のペースで同じ地域に足を運んできました。

私はこの経験から、ある考えが浮かびました。もしあの場で、自分が歌いたい歌、やりたい歌をやっていたら、こんなに喜んでもらえたのだろうか。皆さんに主役になってもらったからこそ、ここまで喜んでくれたのではないかと。そしてこれは、音楽に限らずボランティア全般に言えるかもしれない。ボランティアは自分のやりたいことをしに行くものではない。ましてや自己実現や自分探しのために行く

ものではない。被災して悲しみに暮れる地元の方々、再び自分の足で立ち上がれるように、今何を必要とされているか、「心のリクエスト」に応えることが、ボランティアに求められるのではないかと考えたのです。

それ以来、どんな活動の時も、まずは地元の方々とのつながりを大切に、皆さんの意向を尊重してお手伝いさせていただくことを心がけてきました。私たち外部のボランティアはいずれ立ち去る存在です。地元の方々が主役であってこそ、私たちが去った後もその地域の復興が続いていくのだと思います。

そうしてお付き合いが深まるにつれ、皆さんの本音をいろいろと聞かせていただくようになりました。震災から一年が経つ頃、ボランティアも報道陣も大幅に減ってしまったのですが、そのことを寂しく思う方がたくさんいらっしゃいました。

「私たちのことを忘れないでほしい。具体的に何がほしいとか何かしてほしいとかじゃないの。離れていても一緒だよと、実感できるつながりがほしい」

と。そして、

「石田君、私たちが元気になれる歌を作って」

と、リクエストを下されたんです。そこで、地元 皆さんからお聞きした一言一言をつないでつないで、歌にしました。『やっぺす♡石巻』という曲です。やっぺすとは東北の方言で「一緒に“やりましょう”」という意味。その言葉通り、レコーディングでは皆さんにも一緒に歌っていただき、ミュージックビデオにも出演していただきました。とても元気の出る作品に仕上がったと思います。YouTubeに公開していますので、ぜひ一度ご覧ください。

東日本大震災以降も、熊本地震や能登半島地震など、様々な地域を訪れています。被災した方々を忘れずに、思いを寄せ続けること。機会を見つけて、その思いを伝えること。それだけでも大きな支援になると思います。

どうか皆さんの優しさを忘れないでいてください。これからもみんなで、ともに「やっぺす!」また三木市の皆さんと歌でつながれる機会があれば幸いです。

隣保館カレンダー 3月



日 曜	催し・講座など	日 曜	催し・講座など
1 金	人権相談(緑が丘町公民館) 13:00~16:00	16 土	
2 土	書を楽しむきらきら教室 13:00~15:00	17 日	
3 日		18 月	
4 月		19 火	経営・職業相談 10:00~スマホ入門講座 13:30~
5 火	経営・職業相談 10:00~	20 水	春分の日
6 水		21 木	人権相談(市役所) 13:00~16:00
7 木		22 金	経営・職業相談 10:00~
8 金	経営・職業相談 10:00~	23 土	
9 土		24 日	
10 日		25 月	エアロビクス講座 14:30~15:30
11 月	エアロビクス講座 14:30~15:30	26 火	子ども教室 遠足(舞子方面) 経営・職業相談 10:00~
12 火	隣保館運営委員会 経営・職業相談 10:00~	27 水	
13 水		28 木	手芸サークル 13:30~
14 木	手芸サークル 13:30~ 人権相談(吉川支所) 13:00~16:00	29 金	経営・職業相談 10:00~
15 金		30 土	茶道教室 9:00~

2024年フィールドワーク京都を終えて

1月27日(土)、人権推進課・三同教共催のフィールドワークを開催しました。今回は、2022年4月にオープンした宇治市の「ウトロ平和祈念館」と「清水寺周辺の人権史跡」を訪ねました。

最初に訪れたウトロ地区とは、戦前に飛行場建設に携わった在日コリアンの居住地区です。「ウトロ平和祈念館」で、副館長の金秀煥(キムスファン)さんから、ウトロ地区の人々が差別に立ち向かってきた歴史、平和祈念館の設立経緯、祈念館に込められた関係者の思いなどの説明を受けました。



その後、2021年に発生した「ウトロ放火事件」の

総合隣保館 使用料改定のお知らせ

令和6年4月1日から貸室の使用料を改定します。新料金は4月1日以降に利用申請された分から適用となります。なお、減免(料金の減額及又は免除)の取扱いに変更はありません。

貸室等名	現行料金 (円/時間)	改定料金 (円/時間)
大会議室兼体育館	400	600
相談室・会議室	200	150
中会議室	200	300
和室	200	200
生活改善室(調理室)	500	600
図書室	150	200
学習室	100	150

生々しい焼け跡の残る地区内を視察しました。

金副館長が、「日本に暮らす全ての人々がつながり、力を合わせることで未来が開ける」と熱く語られたのが印象的でした。「共に生きる」という人権問題の本質的な意味を考えさせられる内容で、参加者にとって有意義な研修になりました。

後半の清水寺周辺での視察では、ガイドボランティアさんから清水坂に暮らした中世の差別された人々の話を聞きました。

清水寺では、寺院設立にゆかりのある平安時代の征夷大將軍、坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)と戦ったアイヌの

「北天の雄、阿豆流為・母禮(あてるい・もれ)」の碑の説明などを聞き、新たな知識を得ました。



人権啓発紙「隣保館だより」3月号

令和6年3月1日発行(毎月1日発行)

三木市市民生活部 人権推進課編集

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館 TEL 0794-82-8388

FAX 82-8658 E-mail:jinken@city.miki.lg.jp